



花街のきほんQ & A

Ver.3

Q1 花街、花柳界ってなに？

芸妓さんと呼べる料亭などのお店が、ある程度集積している都市の一画のことを花街と言います。戦前は全国のどのまちにもありました。一方花柳界は、芸妓さんが活動する業界を指します。

Q2 なぜ花街を「かがい」と読むの？

花街柳巷(かがいりゅうこう)という漢語からきています。花柳界の「花柳」も、この花街柳巷からきています。昭和になって「はなまち」という読み方も流行しました。

Q3 花街と遊郭ってどう違うの？

近代の花街は三味線や舞などの芸でもてなす芸妓がいるまちで、娼妓のいる遊郭とは区別されました。

Q4 全国にはどんな花街があるの？

京都5花街、東京6花街、金沢3茶屋街などが有名で、他にも薄野、盛岡、山形、酒田、静岡、八王子古町、名古屋、岐阜、博多、長崎など、現在は合計30～40地区程度残っているとされています。中でも特に戦前の情緒が残るのは京都、金沢、新潟です。

Q5 三業ってなに？

芸妓が所属・居住する「置屋」、座敷を提供する「茶屋(待合)」、座敷と料理を提供する「料理屋(料亭)」の3つの業種のこと。

茶屋(待合)では仕出しをとります。各花街で構成や呼称は異なります。

京都や金沢はお茶屋が中心ですが、それ以外は現在ではもっぱら料亭が中心です。

Q6 花街の建物ってどんなもの？

三業それぞれの建物があります。特に料亭は数寄屋造りなど豪華な造りが多くみられます。他にも、芸妓さんの稽古場や「をどり(後述)」の会場となる「歌舞練場」や、「検番(見番)」などがあります。

Q7 検番(けんばん)って何をするとところ？

見番、券番とも書きます。置屋と料亭・茶屋の間を取り次いだり、花柳界全体を統括・運営したりする事務所です。新潟では三業会館の1階にあります。

Q8 芸者さんや芸妓さん、舞妓さんの違いは？

基本的には全部同じ職業です。芸妓は京都などでは「げいこ」、新潟などでは「げいぎ」と読みます。東京では芸者、芸者衆と言います。京都の舞妓(まいこ)は、半人前の芸妓(げいこ)のことで、東京などでは半玉(はんぎょく)と言います。

Q9 柳都さんってなに？

新潟では、若い芸妓の育成を目指して昭和 62(1987) 年に全国に先駆けて柳都振興株式会社が設立されました。この株式会社方式の新しい置屋に所属する芸妓を「柳都さん」と呼びます。そのうち若手を「振袖さん」、一定の研修を積むと「留袖さん」と呼びます。「振袖さん」は舞妓・半玉に相当します。

Q10 柳都さんにはどこで会えるの？

料亭などでの個々のお座敷の他に、各種イベントで会うことができます。

2月	にいがた冬 食の陣 ふる町振袖さんおどり初め会	7～9月	にいがた夏 食の陣、料亭の味と芸妓の舞
3月	柳と華の会、にいがた酒の陣	8月	新潟まつり・住吉行列、明和義人祭
5月	古町どんどん	9～11月	料亭の味と芸妓の舞
6月	ふるまち新潟をどり	10月	古町どんどん

Q11 「をどり」ってなに？

芸妓総出演の定期的な舞踊公演のこと。京都祇園甲部の「都をどり」などが有名です。新潟では、6月に「ふるまち新潟をどり」がリ्यूとぴあで開催されます。

Q12 お座敷ってどんなことをするの？

芸妓の唄、三味線、舞、着物などを鑑賞しながら、会席料理をいただき、お座敷遊びを楽しみます。洗練された日本建築の意匠や季節のしつらえなどと併せ、日本文化を包括的に体感できる、いわば最後の純和風空間です。

Q13 地方(じかた)と立方(たちかた)って？

唄や三味線を担当する芸妓を「地方」、舞を担当する芸妓を「立方」と言います。先輩格のお姐さん芸妓は、普段のお座敷では地方を担当することが多いですが、大きな舞台では立方も務めます。お座敷で舞を鑑賞するには、最低地方1人、立方1人が必要です。

Q14 どうやったらお座敷に行けるの？

古町では一見さんお断りは無く、新潟三業協同組合加盟店の料亭に申し込みます。他にも中央区主催の「料亭の味と芸妓の舞(ランチ)」や「食の陣(芸妓の舞コース)」など、リーズナブルにお座敷が体験できるイベントもあります。最近では、女性客も増えています。

Q15 お座敷の費用ってどれくらい？

飲食代と、芸妓さんをお呼ぶための花代(はなだい)が必要です。飲食代は料亭によって異なります。三業協同組合HPなどに値段が掲載されています。すべてに上質なものを使っているので格安とはいきませんが、予算に応じて対応してくれます。花代は芸妓1名につき2時間2万円が目安ですが、1時間でも可能です。花代は客の人数で割れば、1人当たりの負担はそれほど大きくありません。

